



GRESB へ日本初の「インフラストラクチャー（インフラ）投資家メンバー」として加盟しました

GPIF は不動産・インフラ投資分野における ESG（環境・社会・ガバナンス）評価基準を提供するイニシアティブ「GRESB」に、日本初のインフラストラクチャー投資家メンバーとして加盟しました。

GPIF は環境、社会問題などが資本市場に与える負の影響を減らし、運用資産全体の長期的なリターンを向上するため、ESG を考慮した投資を推進してきました。

このたび、インフラ投資分野において、市場全体の ESG 情報の開示促進と運用受託機関等との建設的な対話促進のため、GRESB に加盟しました。

GPIF は自らのスチュワードシップ責任を果たすため、インフラの投資・運用プロセスにおいて、GRESB 評価制度を積極的に活用することを運用受託機関に求めています。

GRESB の概要

GRESB は 2009 年に欧州の年金基金を中心に設立されたイニシアティブで、不動産及びインフラ投資における ESG 評価基準を提供しています。毎年一度、インフラ事業者やインフラファンドにおける ESG 投資の取り組みや達成度を評価します。2021 年の年次評価では 700 を超えるインフラ事業者やインフラファンドが参加し、不動産を含めるとその対象となる実物資産は約 6.4 兆ドルに達します。150 以上の機関投資家（合計運用資産 50 兆ドル超）が投資家メンバーとして、評価結果を投資先の選定、モニタリングやエンゲージメントに活用しています。

